

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第12次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん おかやまけんじんぞうびょうきょうぎかい		
団体名称	特定非営利活動法人岡山県腎臓病協議会		
代表者職名	理事長	ふりがな	きばた しんいち
		代表者氏名	木畑 進一 (印)
ふりがな			
団体住所	〒700-0807 岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ・岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 1階		
電話番号		FAX	
設立年もしくは活動年数	設立 昭和50年8月10日 法人取得 平成15年5月27日		
スタッフ数	有給スタッフ 3名・無報酬スタッフ 0名・ボランティア等 10~15名		
団体HP(あれば)	https://www.okajin.jp/		
FBページ(あれば)	https://www.facebook.com/npo.okajin/		
CANPAN登録(原則必須)	あり (星 つ) 【団体ID: 】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	事務局長	ふりがな	みやもと ようこ
		担当者氏名	宮本 陽子
郵送物送付先住所	〒700-0813 岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ1階		
担当者電話番号(極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	西日本豪雨災害 まび支援事業 各種教室&相談会
事業概要 (事業内容を簡単に)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種教室の実施 絵手紙・笑い文字・バルーンアート・腹話術 ・ 相談会の実施 教室終了後、茶話会と個別相談会の実施 ・ 電話相談の継続 ・ 倉敷市被災者への定期絵手紙提供(まび支え合いセンター)
活動(予定)期間	2020年 4月 1日 ~ 2020年 12月 31日
活動(予定)場所	倉敷市真備町 まび記念病院・真備町内
受益者数	直接受益者(約 100名) 間接受益者()名 ※いる場合
<p>事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入) ・ 事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか <p>第2次申請で助成していただきましたが、2018年7月直後、倉敷市・総社市・高梁市・新見市の被災透析患者は、30程度の施設を避難所・仮設団地など住まいが変わるたびに転院があったため、実際に支援事業としての開始は2019年1月となった。それまでの期間は、病院訪問で個別相談により『透析治療』を受けられることを優先相談とした。</p> <p>1月以降、現在まで12回の絵手紙教室&相談会(電話相談も含む)を、岡田仮設団地の被災者、真備町被災者、まび記念病院の透析患者を対象に実施している。</p> <p>岡田仮設団地は25棟から現在9棟に、まび記念病院の透析患者(7月時点で100名70歳以上70%)の95%が2020年1月には帰ることができた。また、災害後、当地区では高血圧や糖尿病などの悪化、悪化からの人工透析が多く、医師会・栄養士会と連携し、災害時の栄養管理などについて協議を重ねている状況でもある。被災⇒健康管理については、様々な角度から寄り添い早期発見・治療に導き重度化予防が重要と考えている。</p> <p>透析患者を抱え生活する家族の負担・不安も大きく、今後はまび記念病院を中心に、透析患者・家族、近隣の被災者を対象に、教室と茶話会・相談会を実施</p> <p>茶話会では、同じ状況下で共通の悩みや情報交換など、参加者の中には茶話会だけでも心が癒されると話す方もあり重要と考え実施する。</p> <p>範囲を広げ支援することで、より多くの被災者支援になる。現在の支援まで、被災者の中にはどこに相談してよいのか一人で悩んでいる方も少なくなかった。そうしたことの解消に少しでも繋げられればと思います。</p> <p>直接相談や会話の中でひきこもり対策・CKD(生活習慣病)の早期発見・治療に繋がれること、専門職種の団体との連携でより安心して相談していただき、悪化・重度化の予防に貢献したい。</p> <p>『この場にいると笑うことができる』 ⇒ 『普段の生活に笑いが戻ったよ』を目指し活動継続をしたいと考えます。</p>	
<p>事業の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのようなことをいつ(回数等)やるのか <p>・ 2020年4月~12月</p> <p>現在もまび支え合いセンターより、倉敷市の被災者に届けている(約6,000枚)絵手紙は、被災者の近況連絡や健康相談にも役立てていただいています。</p> <p>被災者の方からぜひ学びたいとの要望も多く、まび支え合いセンター・まび記念病院会議室・岡田仮設集会所などを利用し、引き続き幅広く被災者支援の絵手紙教室・笑い文字教室・バルーンアート・腹話術など月1回の予定で開催し、教室終了後は、健康・メンタル相談室の継続で、生活習慣病予防・認知症の早期発見・引きこもり(鬱)対策など、岡山県医師会・栄養士会・ソーシャルワーカー協会・看護協会等との連携で予防活動を行う。(計9回予定)</p> <p>絵手紙教室&相談会 3回 笑い文字ワークショップ&相談会 4回 バルーンアート教室&相談会 1回</p>	

腹話術で笑おう会&相談会 1回の予定

事業の実施体制

・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

① 落語会&バルーンアート

・まび記念病院、まび記念病院腎友会、上方落語笑店(ナイスエデュケーション)、

② 笑い文字・絵手紙教室&相談会

・一般社団笑い文字普及協会、岡山県医師会、岡山県栄養士会、岡山県ソーシャルワーカー協会、岡山県看護協会

事業実施後の展望

・助成期間後も活動を継続す場合はその内容や展望
 ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

笑い文字・絵手紙教室&相談会 継続事業とする

・アートフラワーや簡単な折り紙なども取り入れながら、相談会とセットで開催を継続。
 特に被災患者は高齢者が多く、また、被災後、高血圧・糖尿病の悪化、認知症・引きこもりなどもある。
 特に持病を持つ透析患者、生活習慣病患者の家族に対しても、大きな不安を抱えていることから継続事業を考えている。電話相談なども継続したいと考えています。

その他

・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

実施内容は昨年度事業を引き継ぐ形となっておりますが、被災した対象者の方を取り巻く状況（健康状態・住環境）に大きな変化がありました。ようやく落ち着きつつある生活と治療の体制を、ここで中断させてしまうことは、QOLに大きな影響を及ぼすと考えております。仮設住まいから自宅に戻られた方も、コミュニティを求められています。

そのため開催場所を複数にすること、実施回数や他団体（または分野）との連携を、昨年よりも厚みのあるものにして活動を行いたいと考えております。

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。 【他助成金で確定しているものも収入に入れてください】

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金（助成申請額）	200,000	
自己資金	31,000	
合 計	231,000	

2) 本事業の支出

費 目（必要な場合算出根拠）	金 額	備 考
講師費用・交通費（落語・笑い文字・バルーン・絵手紙）	120,000	
笑い文字(尾道) バルーン・絵手紙・腹話術(岡山)		
材料費(笑い文字・バルーン・絵手紙)	76,000	
印刷費	15,000	
茶話会(お菓子・お茶) 9回	10,000	
雑費（送料・封筒・コピー費用等）	10,000	
合 計	231,000	